

I 県立図書館における読書活動の推進

1 本県の親子読書活動推進の経緯

(1) 親と子が共に伸びる20分間読書運動について

本館が、県民に意識と教養の向上のために努力してきましたグループによる読書網の開拓では図書利用グループ3,000の実績をあげながら、大衆運動とまでなり得ない憾みがありました。

特に最近の数年間、本館が最も力を注いで『考える農業』を提唱し、本県産業の振興を図るために推進してきました『農業文庫』は、大方の歓迎と実績を納めながら、なお幾多の問題点があり、読書に対する抵抗は意外に大きいようであります。

そこで本館では、この現状を打破するために、過去一年間の研究実績をもって、広く県下に「親子二十分読書運動」を展開し、これによって県内隈なく読書網の間隙をなくし、広く読書に対する関心と意欲を高め、親も子も読書の習慣を体得して、根強く生活の中に生かされるよう、あらゆる関係機関、団体等の協力によって、今後数年間継続的に主旨の徹底を計ろうとするものであります。

一、親子読書の在り方

毎日、子供が二十分間ずつ本を読むのを親が聞くやり方で、三日間で一時間、一か月間では十時間、一年間には十五、六冊から二十四冊以上の本を読むことになります。

一、親と子の心の結びつき

- (1) 同じ主題を通じて、親と子が共に感動しあい、親と子の間に精神的な橋がかかる。
- (2) 毎日親と子が二十分間ずつ努力することによって、無言の教訓を子供に与える。

一、親の側への影響

- (1) 高学年の子供の読物からは広い知識を、低学年のものからは、童心がよみがえって精神生活を豊かにする。
- (2) 子供の学習に参加し、関心を高める。
- (3) 生活時間の自主設計への動機。

一、子供に及ぼす影響

- (1) 根気を養う。
- (2) 精神的不安定児の治療。
- (3) 物事をなしとげる喜びと自信をつける。
- (4) 頭脳の鍛錬。
- (5) 精神的経験を豊かにする。
- (6) 理解力をつける。
- (7) 読書力をつける。
- (8) 偏読対策の一方法。

出典：「親と子が共に伸びる20分間読書運動の主旨」より抜粋（『鹿児島県立図書館史』平成2年3月）

(2) 親と子が共に伸びる20分間読書運動の経過

○ 昭和35年から昭和40年まで～

運動の啓蒙を図りながら、着実な実績を収める時期

- ・ モデル地区10地区を指定し、200冊を無料で貸付け配布
- ・ 研究調査報告書等を作成し、客観的に取組を分析

○ 昭和39年から昭和49年まで

運動の定着と発展を見せた時期

- ・ 幼児への読書啓蒙の必要性を提唱
- ・ 親子20分読書事例集の作成

○ 昭和50年以降

一層の深化・発展を遂げた時期

- ・ 親子読書研究誌「さざなみ」の刊行、活動状況の調査の実施
- ・ 親子読書研究会の実施

(3) 1日20分読書運動へ <平成以降の取組>
【県または県立図書館の取組】

親子20分読書運動（昭和35年～）

豊かなまちづくり読書推進事業
（平成元年～7年）

- ・ 地区親子読書巡回セミナーの実施
- ・ 読書推進キャンペーンの実施

心を育てる「本も友だち20分間運動」推進事業
（平成8年～12年）

- ・ 読書シンポジウムの実施
- ・ ポスターの作成・配布

乳幼児期からの読書活動の推進
（平成13年～15年）

- ・ 「絵本ガイド」の作成・配布
- ・ 指導者育成の研修会

「広げよう深めよう『読み聞かせ』」指導者研修会の
実施（平成16年～18年）

- ・ 父親も対象とした研修会の実施

「自ら本に手を伸ばす子ども」育成事業
（平成19年～21年）

- ・ 指導者を対象とした研修会の実施

かごしまっ子20分読書運動「いつも身近に1冊の本を」

- ・ 読書活動推進委員養成講座の開設
- ・ 親子1冊読書の普及
- ・ 地域の読書活動グループ活性化研修会の実施

「1日20分読書運動『いつも身近に1冊の本を』」

- ・ 子ども読書活動推進スキルアップ研修会の実施
- ・ 鹿児島県高校生ビブリオバトル大会の開催

【「さざなみ」の変遷】



- 第1号(昭和45年創刊)
○「文集」という形で刊行
- ・ 親子20分読書で読んだ本の感想
 - ・ 親子20分読書の取組や感想
 - ・ 運動普及のための資料等



- 第7号～
○「親子読書研究誌」として刊行
- ・ 各地区で取り組まれた親子読書の実践記録
 - ・ 活動発表の報告 等



- 第40号
○「国民読書年」,
「親子20分読書」提唱50年
- ・ 「朝読み・夕読み」実践状況調査
 - ・ 緑陰読書実施状況等の調査

県子ども読書活動推進計画
第一次(H16年～H20年)
第二次(H21年～H25年)
第三次(H26年～H30年)
第四次(H31年～R5年)

(4) これからの取組

このような経緯を踏まえながら、取り組まれてきた鹿児島県の「親子読書」。

現在では、県内の市町村立図書館(室)でも、蔵書や館内設営の充実、おはなし会や研修会の実施、ボランティアグループとの連携と様々な活動に取り組んでいる。今後も県立図書館と各市町村立図書館が連携を図ることはもちろん、学校、家庭、地域にも働きかけながら親子読書をはじめとした「読書活動の充実」に努めたい。